

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(60歳代女性)ありました。症状は発熱、咳嗽、下痢、肺炎です。感染地域は国内で、感染経路は水系です。本年の累積報告数は27例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(70歳代男性および50歳代女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は64例となりました。
- 百日咳の報告が1例(10歳代男性)ありました。症状は夜間の咳き込み・嘔吐で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は97例となりました。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.67(115例)となり、前週の2.35(101例)からわずかに増加しました。手洗いなどにより感染を予防しましょう。
予防方法等詳細については下記URLを御参照ください。
○健康安全課ホームページ「感染性胃腸炎に注意!!」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000046226.html>
- インフルエンザの定点当たり報告数は京都市では0.55(38例)となり、前週の0.46(32例)から微増しました。全国ではすでに前週「流行入り」の指標となる「1」を超え、今週は1.84となりました。これからの流行期に備え、体調管理に注意し、手洗いやうがいの励行、咳エチケットなど予防を徹底して下さい。インフルエンザの発生状況や予防対策については、下記URLを御参照ください。
○インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
○京都市こどもの感染症(令和元年11月号)「インフルエンザウイルス流行に備えよ!」(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>
○インフルエンザの発生状況について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000051303.html>

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

12月1日は世界エイズデー(World AIDS Day)で、WHO(世界保健機関)が1988年に、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者及び感染者に対する差別や偏見の解消を目的に制定しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別、年齢、症状、感染地域^{*}、感染経路^{*}の順に掲載。ただし、結核は除く。)

- 二類: 結核 5例(肺結核 2例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 288例(肺結核 124例, その他結核70例, 潜在性結核感染者 94例)うち喀痰塗抹陽性 62例】
- 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 27例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 64例】
- 五類: 百日咳 1例【1月以降の累積報告数 97例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ [*]	インフルエンザ	0.55	38
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.67	115
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.67	72
	③ 咽頭結膜熱	0.58	25
	③ 伝染性紅斑	0.58	25
	⑤ RSウイルス感染症	0.49	21
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

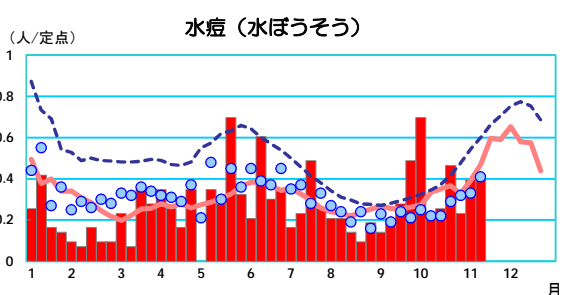
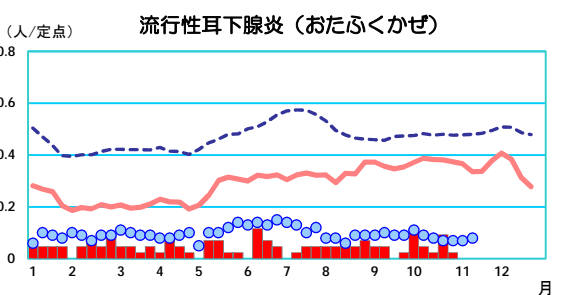
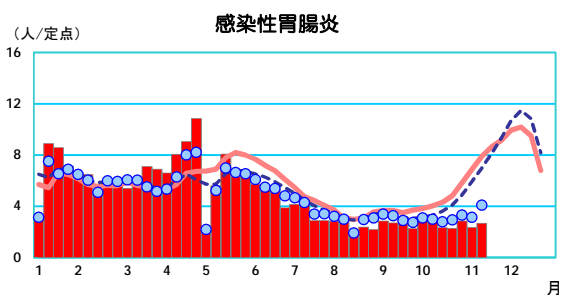
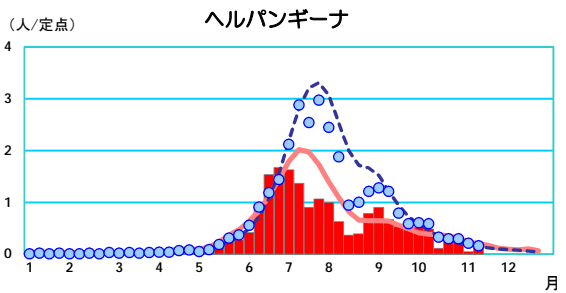
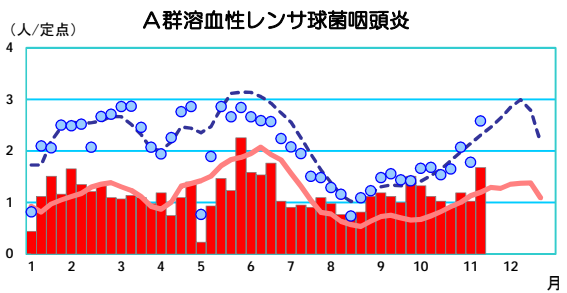
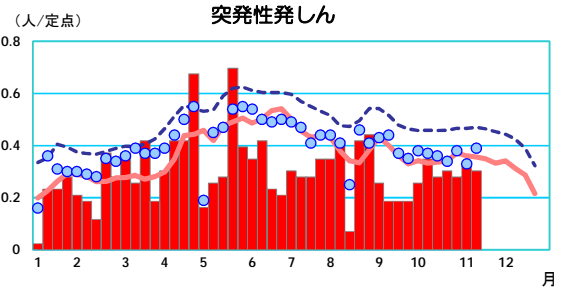
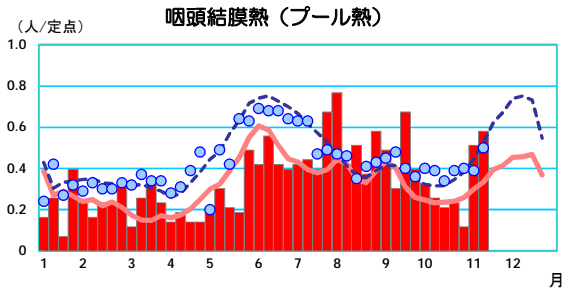
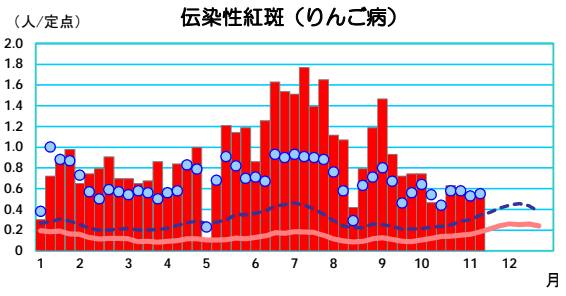
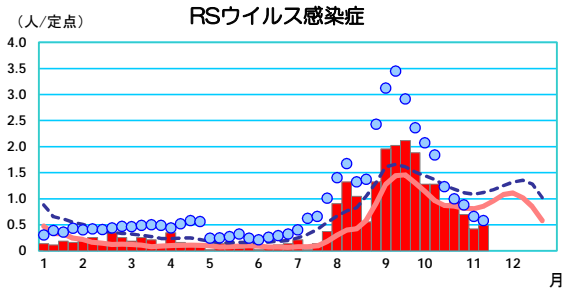
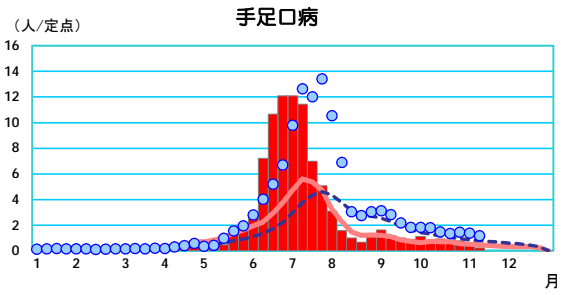
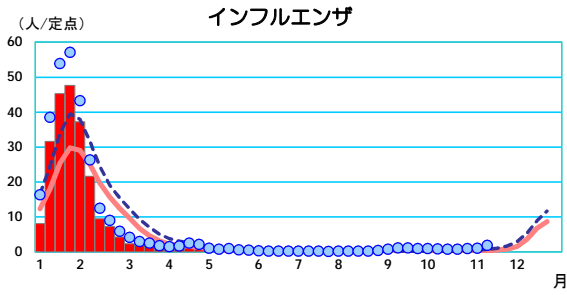
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年11月20日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

^{*} 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第46週(11月11日～11月17日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

12月1日は世界エイズデー(World AIDS Day)で、WHO(世界保健機関)が1988年に、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者及び感染者に対する差別や偏見の解消を目的に制定しました。今年のテーマは「UPDATE! 話そう、HIV/エイズのとらえ方～検査・治療・支援～」です。

国連エイズ計画(UNAIDS)の最新の報告では、2018年末の世界のHIV陽性患者(生存AIDS患者を含む)は3,790万人で、このうち、抗HIV治療を受けている人は2,330万人で、ともに昨年より増加しています。一方、新規HIV感染者は170万人と、2000年と比べて約40%減少しました(表1)。

2014年にUNAIDSがHIVの流行を制御する戦略として、「90-90-90」を打ち出しました。これは2020年までにHIV陽性患者の90%が自身のHIV感染を知り、自身の感染を知った患者のうちの90%(HIV陽性患者全体の81%)が治療を継続して受け、治療を受けているHIV陽性患者の90%(HIV陽性患者全体の72.9%)が体内のウイルス量を抑制することで、エイズの終息を目指しています。一方、UNAIDSの報告によると、2018年の世界の全HIV陽性患者のうち、自身がHIV陽性であることを知っているのは約79%で、このうち抗HIV治療を受けたのは約78%、さらにこのうちウイルス量が抑制されているのは約86%で、未だに目標に達していません。

ところで、近年、「U=U(Undetectable=Untransmittable)(検出限界値以下なら感染しない)」、つまり、効果的な治療を受け、HIV量を検出限界値以下のレベルに抑えられているHIV陽性患者からは、性行為によって他の人にHIVを感染させないことが科学的に証明されています。どのくらいの期間、抗HIV薬を服用すれば、HIV量を検出限界値以下になるかは個人差があるため、医療機関への受診と相談が欠かせません。このため、感染の早期発見・早期治療が、感染拡大防止とともに、患者の健康と生活の質を保つこととなります。

世界エイズデーには世界各地でエイズに関する啓発活動が行われます。京都市でも、同日、エイズに関する正しい知識の啓発と合わせて、エイズのまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、街頭啓発キャンペーンを実施します。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

(参考)「90-90-90」に基づく2018年推定値

【京都市世界エイズデー街頭啓発キャンペーンの実施について】

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000259062.html>

診断率	79%
治療率	78%
ウイルス量抑制率	86%

(表1)世界のHIV陽性患者数、抗HIV治療を受けている人HIV陽性患者及びその割合の年次推移(※)

	2000年	2005年	2010年	2012年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
HIV陽性患者(万人)	2,490	2,850	3,170	3,320	3,480	3,560	3,640	3,720	3,790
抗HIV治療を受けているHIV陽性患者(万人)	57.6	200	770	1,120	1,510	1,700	1,910	2,130	2,330
抗HIV治療を受けているHIV陽性患者割合(%) (注)	2.3%	7.0%	24.3%	33.7%	43.4%	47.8%	52.5%	57.3%	61.5%
全HIV新規感染者(万人)	280	240	210	200	190	190	180	180	170

(注)表1の「抗HIV治療を受けているHIV陽性患者割合(%)」は全HIV陽性患者を母数としているため、上記文章内の数値とは一致しません。

(※)エイズ予防情報ネット「UNAIDS「ファクトシート2019」」参照 (<https://api-net.jfap.or.jp/status/world.html>)

(令和元年11月25日閲覧)

理解と支援の象徴「レッドリボン」



レッドリボン

「レッドリボン(赤いリボン)」は古くからヨーロッパに伝承される風習の一つで、もともと病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の意を表すものでした。

この「レッドリボン」がエイズに関する運動に使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1980年代の終わりごろです。このころ、ニューヨークのアーティストたちにもエイズが広がり、エイズで亡くなる人が増えていきました。そうした仲間たちに対する追悼の意とエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すために、「赤いリボン」をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDSのシンボルマークにも採用されました。

レッドリボンはあなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。

京都市エイズ啓発キャラクター「あかりん」(左図)は、京都市が2009年に、エイズの更なる啓発のため、レッドリボンをモチーフに作成しました(名称は市民公募)。日本では数少ない、エイズ啓発に特化したキャラクターです。



京都市エイズ啓発キャラクター「あかりん」

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第46週

疾病,行政区別報告数

2019年11月11日～2019年11月17日

データ入手日:2019年11月20日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	2	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-						
上京	2	1	4	2	-	1	-	2	2	-	-	-	-						
左京	3	1	3	16	12	6	-	1	4	2	-	-	-						
中京	4	2	1	1	8	1	2	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1	-	-	1	6	1	1	1	-	-	-								
山科	11	6	-	12	1	1	-	2	-	1	-	-	-						
下京	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-								
南	3	-	-	3	2	2	-	5	1	-	-								
右京	4	5	10	22	12	4	2	4	-	-	-	-	-						
伏見	5	3	6	8	56	1	2	7	4	-	-	-	-						
西京	3	3	1	5	17	-	2	-	1	-	-	-	-						
京都市計	38	21	25	72	115	17	9	25	13	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	0.29	-	-	0.50	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-						
上京	0.40	0.33	1.33	0.67	-	0.33	-	0.67	0.67	-	-	-	-						
左京	0.43	0.25	0.75	4.00	3.00	1.50	-	0.25	1.00	0.50	-	-	-						
中京	0.80	0.67	0.33	0.33	2.67	0.33	0.67	-	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	0.33	-	-	0.50	3.00	0.50	0.50	0.50	-	-	-								
山科	1.57	1.20	-	2.40	0.20	0.20	-	0.40	-	0.20	-	-	-						
下京	-	-	-	-	0.50	-	-	1.00	-	-	-								
南	0.60	-	-	1.00	0.67	0.67	-	1.67	0.33	-	-								
右京	0.50	1.00	2.00	4.40	2.40	0.80	0.40	0.80	-	-	-	-	-						
伏見	0.45	0.43	0.86	1.14	8.00	0.14	0.29	1.00	0.57	-	-	-	-						
西京	0.38	0.60	0.20	1.00	3.40	-	0.40	-	0.20	-	-	-	-						
京都市計	0.55	0.49	0.58	1.67	2.67	0.40	0.21	0.58	0.30	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第46週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年11月11日～2019年11月17日

データ入手日:2019年11月20日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	38	-	-	2	1	1	1	1	1	1	2	2	4	5	4	5	3	2	2	-	1	
RSウイルス感染症	年齢3	21	2	5	8	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		25	-	2	3	4	4	2	4	-	1	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		72	-	2	2	1	6	12	5	11	9	6	6	9	-	3	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		115	1	9	15	13	9	9	6	9	6	8	4	17	2	7	-	-	-	-	-	-	
水痘		17	-	-	1	-	-	-	-	3	4	2	3	1	3	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		9	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		25	-	-	1	3	3	3	5	1	-	3	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		13	-	4	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		5	-	-	1	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.55	-	-	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.03	0.06	0.07	0.06	0.07	0.04	0.03	0.03	-	0.01	
RSウイルス感染症	年齢3	0.49	0.05	0.12	0.19	0.12	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.58	-	0.05	0.07	0.09	0.09	0.05	0.09	-	0.02	0.02	0.02	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.67	-	0.05	0.05	0.02	0.14	0.28	0.12	0.26	0.21	0.14	0.14	0.21	-	0.07	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		2.67	0.02	0.21	0.35	0.30	0.21	0.21	0.14	0.21	0.14	0.19	0.09	0.40	0.05	0.16	-	-	-	-	-	-	
水痘		0.40	-	-	0.02	-	-	-	-	0.07	0.09	0.05	0.07	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.21	-	-	0.12	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.58	-	-	0.02	0.07	0.07	0.07	0.12	0.02	-	0.07	0.07	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.30	-	0.09	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.12	-	-	0.02	0.02	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第46週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年11月20日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	36	23	28	39	32	38
RSウイルス感染症	55	39	41	30	18	21
咽頭結膜熱	11	9	10	5	22	25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	44	39	51	44	72
感染性胃腸炎	119	100	98	123	101	115
水痘	9	11	20	10	17	17
手足口病	32	40	33	33	22	9
伝染性紅斑	20	20	27	26	22	25
突発性発しん	15	12	13	12	14	13
ヘルパンギーナ	21	5	11	10	2	5
流行性耳下腺炎	2	1	4	1	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	1	-	6	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	371	305	324	346	294	340

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.52	0.33	0.41	0.57	0.46	0.55
RSウイルス感染症	1.28	0.91	0.95	0.70	0.42	0.49
咽頭結膜熱	0.26	0.21	0.23	0.12	0.51	0.58
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.12	1.02	0.91	1.19	1.02	1.67
感染性胃腸炎	2.77	2.33	2.28	2.86	2.35	2.67
水痘	0.21	0.26	0.47	0.23	0.40	0.40
手足口病	0.74	0.93	0.77	0.77	0.51	0.21
伝染性紅斑	0.47	0.47	0.63	0.60	0.51	0.58
突発性発しん	0.35	0.28	0.30	0.28	0.33	0.30
ヘルパンギーナ	0.49	0.12	0.26	0.23	0.05	0.12
流行性耳下腺炎	0.05	0.02	0.09	0.02	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.30	0.10	-	0.60	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.54	6.97	7.29	8.17	6.56	7.57

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。